資料④　環境像について

素案 43P

1　第１回審議会及びヒアリングでの候補について（以下の３候補を提示した）

候補①里山から琵琶湖（を守り続け）、そして次の世代へと繋ぐ自然豊かなまち　やす

理由：里山から琵琶湖へ続く途は、野洲市の豊かな自然のシンボルであり、これを踏襲し、かつ次の第３次計画では、野洲市として自然を次の世代に伝えていく必要（野洲市としての決意）があるため、このフレーズにしました。

候補②里山から琵琶湖、そして暮らしが調和する、笑顔あふれる　やす

理由：里山から琵琶湖へ続く途は、野洲市の豊かな自然のシンボルであり、これを踏襲し、そして、野洲市の最上位計画である、第２次野洲市総合計画の施策２の「豊かな自然とくらしの調和を図りながら、美しい風土を守り育てるため、市民や事業者が協働して自然環境の保全や景観の保全・創出に取り組みます」より、第３次野洲市環境基本計画でも取り入れました。

候補③里山から琵琶湖、そしてビワマスが未来をつなぐ　やす

理由：里山から琵琶湖へ続く途は、野洲市の豊かな自然のシンボルであり、これを踏襲し、ビワマスという野洲市の環境保全のシンボルが未来をつなぐことを想像し、このフレーズにしました。

上記の候補２と候補３で意見が割れたが、多数決で決めることはしたくなかったことから、ヒアリングを通して、現場の意見を聞くことの大切さを実感し、「里山から琵琶湖へ」というフレーズに誇りを持っておられるえこっちの方へ上記を参考にお聞きしたところ、以下の候補が生まれた。

候補①里山から琵琶湖へ、※みどりの回廊そして暮らしが調和するまち　野洲

※緑の回廊：別名グリーン・コリドーと言い、帯状の森林、野生動物の移動経路で、人と動物の暮らしの境界である。共生の象徴である。

理由：審議会やヒアリングの中でも、「野洲市らしさ」や「野洲市の固有名詞を環境像に入れてほしい」という意見もあったこと、「野洲市というフレーズがなくても野洲市が思い浮かぶフレーズにするように」という意見があり、えこっち・やす運営委員の方が「みどりの回廊」という言葉を出された。オリジナリティがあり、みどりが市街地に広がっている情景が目に浮かび、候補①にした。

候補②里山から琵琶湖へ、みどりの道そして暮らしが調和するまち　野洲

理由：上記の「みどりの回廊」が難しい言葉であることから、分かりやすい「みどりの道」の方が良いという意見より候補②にした。